

(6) 2018年(平成30年) 12月27日(木曜日)

サンクスギビングを過ぎるころから急に家々やショップ、センター界隈が賑やかになる。街中をあげてクリスマスをお祝いしている雰囲気は私は好きだ。通り過ぎる人々もいつもより顔がほころんでいる感じがする。冷たい空気を顔に受けながらも、他人の笑顔を見、笑い声を聞くと内側に温かいものを感じホッとす。クリスマスーそれは西暦の中心ともなっている、イエス・キリストの誕生をお祝いするお祭りである。イエス様がご降誕されてから、2000年以上が過ぎた。ちよつと考えてみても、一人の誕生日がこんなにも長い間覚えられ、お祝いされている人はほかに類を見ない。

イエス・キリストが十字架

にはりつけにされ、処刑されたことは歴史上の事実である。私たちも世界中の絵画やアクセサリーなどでよく目にする。死刑になる者は通常、最低最悪の犯罪者たちであ

りが存在するのである。聖書によれば、人は全能の神によって創造され、命を与えられたと記されている。人が生きていくために必要な物や場所をすべて先に用意し、

向け、自己中心に生きるということが、聖書の言う「罪」なのだ。イエス様は全能の父なる神と人間とをもう一度和解させるため、人間をその「罪」からの悔い改めに導き、関係を修復させるためにこの地上にお生まれになった。「罪」に對する神の怒りから人々を救うためには、罪のない者の流す血でその罪を洗い流すしか方法がなかったからである。事実、イエス様を調べ上げた裁判長は、一点たりともイエス様に罪がないことを主張するが、イエス様を殺そうとする権力者たちに丸め込まれてしまう。イエス様はすべての人間の「罪」をその背に背負い、十字架の上で息を引き取った。

イエス・キリストがこの地上にお生まれになった大きな理由は、私たちに神様から離れている「罪」に気づかせ、その「罪」をご自身の命と引き換えに取り去ってくださるためである。このクリスマス

南加キリスト教会連合

イエス様の誕生— 神様との和解

清水 まお

る。ではなぜ世界中がそんな犯罪者の誕生日を祝おうとするのか、と不思議である。そこには「神」を殺そうとした人々と、その人々を愛そうとした「神」との壮絶なストーリー

最後に人を造られた。最初から人への神様の配慮とまごころが詰まっている。そんな恩恵を人は自ら、神に背くという形で神を裏切り、神との関係を切ってしまう。神に背を

き取った。

「ともに喜び、ともに泣き給う」主が、あなたの帰りを待っておられる。感謝しつつ、メリークリスマス。(アメリカング・グレース 教会牧師)